

先進的な障害者サービス等に関するシンポジウム

開催報告書

【名称】 読書バリアフリーと図書館の役割～誰もが読める環境づくり～

【主催】 公益財団法人 文字・活字文化推進機構（文部科学省受託事業）

【後援】 活字文化議員連盟 学校図書館議員連盟
 公益社団法人日本図書館協会 公益社団法人全国学校図書館協議会
 一般社団法人日本新聞協会 一般社団法人日本書籍出版協会
 日本児童図書出版協会
 NPO法人DPI日本会議 社会福祉法人全国盲ろう者協会
 日本弱視者ネットワーク

【協力】 特定非営利活動法人てんやく絵本ふれあい文庫
 点字つき絵本の出版と普及を考える会
 一般財団法人日本児童教育振興財団
 公益財団法人ふきのとう文庫 公益財団法人伊藤忠記念財団
 株式会社講談社 株式会社偕成社
 株式会社音訳サービス・J 株式会社ポニーキャニオン
 有限会社読書工房

【日時】 2021年2月13日（土）13:30～17:00（収録）

【場所】 練馬区立区民・産業プラザ（ココネリホール）
 東京都練馬区練馬1丁目17-1

【対象】 読書バリアフリーなどに関心のある方々

【参加費】 無料（事前申込制）

【開催方法】 無観客開催・収録映像を後日配信
 ※国内外における
 新型コロナウイルス感染症拡大及び
 来場者、登壇者、スタッフの安全性を最優先に判断。
 2021年2月1日に無観客開催を決定し、
 2月13日に収録後、インターネット配信を行った。
 (3月1日～3月31日予定)



【申込方法】 WEBフォーム、メール等
 申込期間：2020年12月18日～2021年3月1日

【申込者】 454名（情報保障希望者12名へ文字テキストデータ提供）

【動画再生回数】 723回（3/10 13現在）

◆趣旨及び概要

読書は、心身に障害のあるなしにかかわらず、すべての国民に与えられた娯楽や教養や知識を得る手段である。これまで「本との自由な出会い」が妨げられてきた障害のある人たちも、読書バリアフリー法の施行で多様な書物の世界への扉に手をかけることができた。しかし障害者が好きな本を選んで、自由読書ができるようになるまでには、引き続き、政策支援や国民の理解を得る取組が必要である。

本事業の趣旨は「読書バリアフリー法」の具現化、公共図書館等の障害者サービスの充実に向けて、地方公共団体や図書館関係者、読書ボランティア団体などの実践を促す点にある。その概要は、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本計画」の説明と普及、講演、シンポジウムなど多様な視点から障害者の読書環境の現状と課題を明らかにすることである。

◆目的

政府は2019年6月「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」を制定・公布し、視覚障害者等の読書推進にかかわる法的基盤を整えた。法律制定の背景には、障害のある当事者からもっと好きな本を自由を買ったり、借りたりできるようにしてほしいという切実な要望があった。もちろん法律が施行されても、すぐに障害者の読書環境がよくなるということではない。国や地方公共団体、出版社、図書館、ボランティア団体など多くの関係者の深い理解と幅広い連携が必要であり、このため本事業は、法律の意義を確かめ合い、障害者の読書環境づくりを促すことを目的に開催する。

◆内容

【行政説明】「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」は、障害者の読書環境の整備に関する施策を総合的かつ計画的に推進する内容をもっている。今後の読書活動や政策活動の基盤として広く普及する必要があることから設定する。

【基調講演・シンポジウム】全国各地で障害者の読書環境づくりが始まっているが、その実践の交流は乏しい。このプログラムは図書館や学校における先進的な障害者サービスの事例及び当事者の事例紹介し、これからの課題について討論するために設定する。

【バリアフリー図書紹介】多様なバリアフリー図書、アクセシブルな読書支援機器を展示する。

◆シンポジウム開催により得られる効果

読書の大切さについて、理解を深めることができる。障害者の読書環境づくりの事例報告を通じて自分の地域で取り組む際の参考となる。立場の異なる人びとによる討論は、障害者のおかれた社会的立場を理解し、共生社会の必要性を分かち合うとともに、教育的資料の作成に役立つことが期待される。

◆事業成果の普及方法

事業成果は、事業終了後、報告書にまとめる。報告書には実施概要・写真・参加者数・アンケート内容を記載。ニュースレターを作成し、関係諸団体に配布するとともに、協力諸団体の機関紙誌やホームページへの掲載など事業成果の全国的な普及に努める。ホームページには、事業終了後の3年間掲載する。

主催者挨拶



主催の公益財団法人文字・活字文化推進機構理事長肥田美代子が挨拶をしました。「読書バリアフリー法の存在を広く、世間に知らせることが何より大切」と語りました。

行政説明 「読書バリアフリー法に関する国の動向」



横井理夫さん（文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長）が読書バリアフリー法、読書バリアフリー法基本計画、読書バリアフリー関連の令和3年度予算（案）に関する説明をしました。

基調講演 「めざそう！みんなに開かれた読書環境を」



アブディン モハメドさんは、視覚障害者は知識を活かした仕事に向いていると述べ、仕事に就くための前提となる知識を得られるために、読みたいものをすぐに読めるように、出版物の発売と同時に多様な出版媒体を作ってほしいと訴えました。

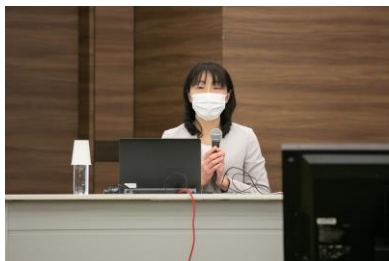
アブディン モハメドさん

（参天製薬株式会社 企画本部 CSR 室 グローバル インクルージョン戦略企画担当）

1978年、スーダンの首都ハルツーム生まれ。生まれた時から弱視で、12歳のときに視力を失う。19歳のときに来日、福井県立盲学校で点字や鍼灸を学ぶ。東京外国語大学特任助教、学習院大学特別客員教授を経て、参天製薬株式会社 企画本部CSR室 グローバル インクルージョン戦略企画担当、東洋大学国際共生社会研究センター客員研究員、NPO法人スーダン障害者教育支援の会（CAPEDS）代表理事、東京都多文化共生推進委員会委員。著書に『わが盲想』（ポプラ社）がある。

シンポジウム 「ひろげよう、障害者の読書環境づくり」

障害の有無にかかわらず、誰もが読書を楽しめる社会にするためには、どのようなことが必要でしょうか。バリアフリーに向けた実践を行っている図書館員や教員、障害のある図書館利用者を迎え、今後の図書館などの障害者サービスの充実に向けて、ご自身の体験をふまえて語っていただくシンポジウムを開催しました。また、シンポジウムの最後には「アピール」を読み上げ、会場にて採択されました。



アピール

読書は、乳幼児期から生涯にわたり、学習や就労、娯楽を支え、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであり、健全な民主主義の発達にとっても必要不可欠です。

これまで「本との自由な出会い」が妨げられてきた障害のある人たちも、読書バリアフリー法の施行により、多様な書物の世界への扉に手をかけることができました。しかし、読書バリアフリー法を真に具現化し、障害者が好きな本を選んで、自由を買ったり、借りたりできるようになるまでには、引き続き、国、地方公共団体、著作権者、出版社、図書館関係者、ボランティア団体など、多くの人の連携協力が必要です。

障害の有無にかかわらず、全ての国民が等しく読書を通して、文字・活字文化の恵沢が享受でき、そしていつでもどこでもだれでも、読みたい本が自由に読めるような、知的で活力ある共生社会を目指していくことを、私たちはここに宣言いたします。

2021年2月13日

シンポジウム 「ひろげよう、障害者の読書環境づくり」

シンポジウム登壇者

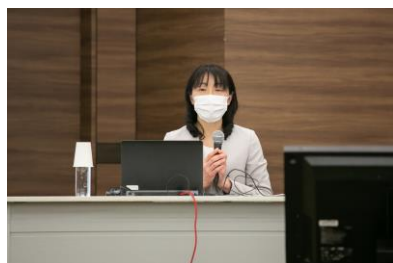


「読書に障害のある図書館利用者として」

神山 忠さん

(元・岐阜特別支援学校地域支援センター長)

文字を読むことに困難がある読字障害・ディスレクシアをもち、学齢期には不登校や非行を経験。自衛隊に入隊し、文字で学ぶのではなく口頭と実物操作で学ぶスタイルに出会う。訓練を終えて夜間の短大に通い、教員免許を取得し教員として32年間勤務。現在は、小学校の用務員として安心・安全な教育環境の整備に努めながら、ライフワークとして誰もが取り残されない社会に向けて相談活動、講演活動、制度設計等に取り組んでいる。



「特別支援学校、特別支援学級での実践について」

野口 由紀子さん

(市川市立南行徳中学校教諭・特別支援教育コーディネーター)

宮城教育大学 特殊教育特別専攻科 言語障害児教育専攻修了。就学前から中学校まで、さまざまな特別支援の世界を渡り歩き、福祉と教育の双方の立場からの連携についての造詣が深い。市川市立須和田の丘支援学校では、公共図書館と学校をむすぶネットワークシステムを活用し、児童生徒の実態に合わせた図書館活動を行った。現在は一般校で特別支援学級担任をしている。



「公共図書館と点字図書館の連携による実践について」

坂本 康久さん (リモート出演)

(オーテピア高知声と点字の図書館 館長)

高知市役所職員。2011年4月から高知市立高知点字図書館長。2018年7月、「オーテピア高知声と点字の図書館」としてリニューアルオープンした声と点字の図書館では「すべての人を本の世界へ」をキャッチフレーズに、県内の障害、高齢、病気など様々な理由で読書が困難な人を対象にサービスを展開。読書バリアフリー法の施行にともない、現在、県内の公立図書館、福祉・医療機関等との連携・協力による「読書が困難な人が手軽にバリアフリー図書を利用できるしくみ」を模索中である。



コーディネーター

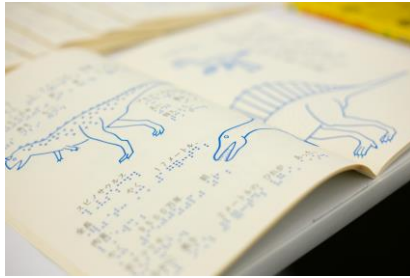
宇野 和博さん (筑波大学附属視覚特別支援学校教諭)

東京学芸大学教育学部卒業後、東京都中学校教諭を経て現職。日本弱視者ネットワークの教育担当役員として、弱視者のための教育環境の改善に関する活動を展開。拡大教科書の普及にも取り組み、著作権法改正や、教科書バリアフリー法の制定に尽力する。その後、障害者の読書環境を整備するためのマラケシュ条約批准や読書バリアフリー法制定など、長年、障害者の読書環境の整備に尽力してきた。NHKラジオ「視覚障害ナビ・ラジオ」レギュラーコメンテーターも務める。



バリアフリー図書展示・紹介コーナー

読書バリアフリーに配慮した各種バリアフリー図書の紹介を行いました。「視覚」「聴覚」「触覚」を活用する本、LLブック、デジタルの特性を生かしたアクセシブルな読書支援機器やアプリを展示しました。



◆電子媒体による普及・広報

収録映像をインターネット配信しました。



◆ホームページ掲載内容

- 動画（メインプログラム/バリアフリー図書紹介）
- 「読書バリアフリーと図書館の役割」式次第
- 行政説明・シンポジウムレジュメ
- アピール文
- ニュースレター
- パンフレット「読書のバリアフリーQ&A」

◆配信内容（事前申込者454名）

- 配信動画URL案内
- シンポジウム登壇者及び関係者による事前質問回答

◆情報保障（希望者）

- 登壇者レジュメテキストデータ・動画文字起こしテキスト

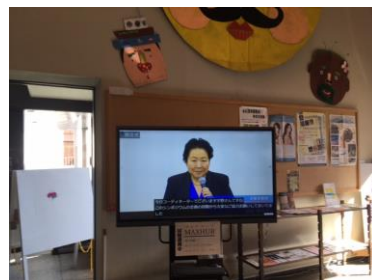
◆紙媒体による普及・広報

事業内容をまとめたニュースレターを作成し、全国の都道府県立図書館ならびに教育委員会へ配布いたしました。



◆その他

- Youtubeにて配信した映像が図書館で展示されました。長野県伊那市立伊那図書館（玄関ホール）
- 新聞之新聞社掲載（2021年3月8日）

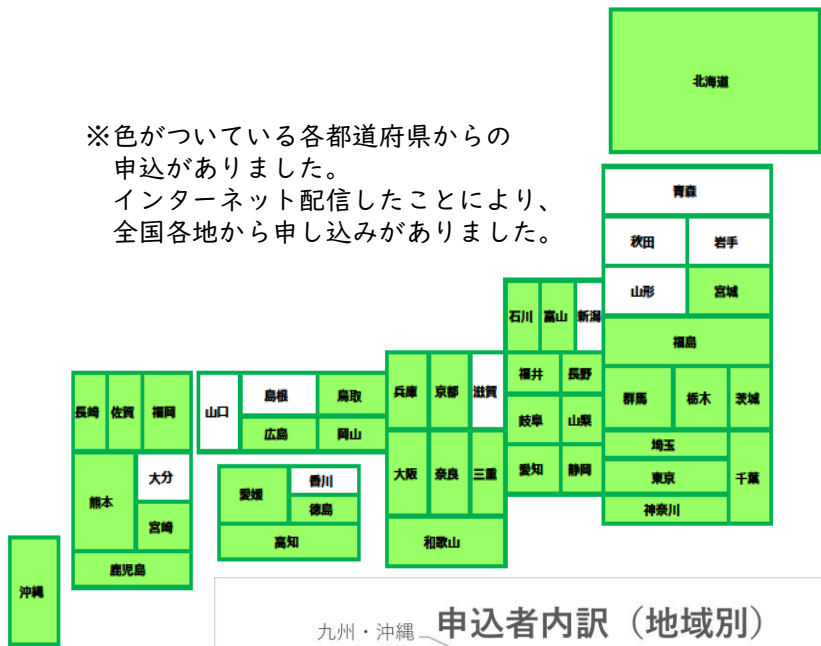


■ 申込者内訳（都道府県別）

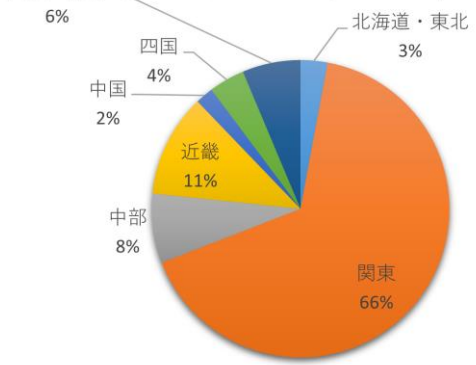
東京都	168
埼玉県	35
神奈川県	31
千葉県	30
大阪府	17
兵庫県	13
宮崎県	13
高知県	12
愛知県	11
京都府	8
岐阜県	8
宮城県	7
鳥取県	6
福岡県	6
茨城県	6
長野県	4
福島県	4
奈良県	4
三重県	3
静岡県	3
徳島県	3
佐賀県	2
長崎県	2
山梨県	2
北海道	1
沖縄県	1
広島県	1
群馬県	1
岡山県	1
栃木県	1
和歌山県	1
愛媛県	1
福井県	1
富山県	1
熊本県	1
鹿児島県	1
石川県	1

※申込者のうち、回答があった方の内訳

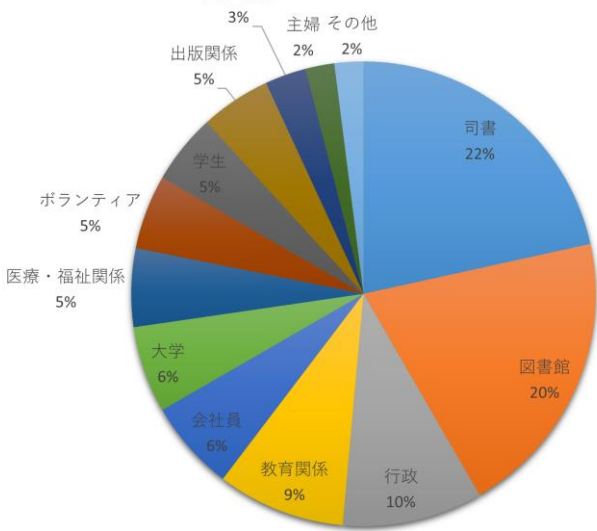
※色がついている各都道府県からの申込がありました。
インターネット配信したことにより、全国各地から申し込みがありました。



申込者内訳（地域別）



申込者内訳（職業別）



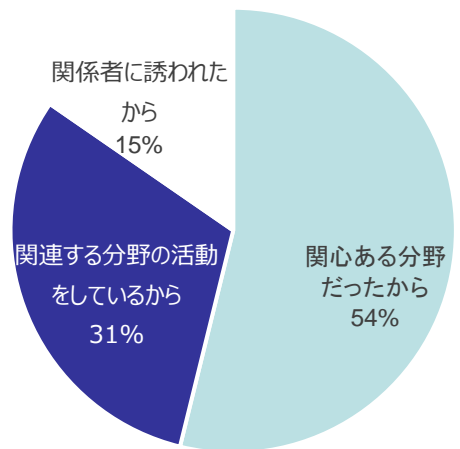
※詳細は次ページにて

職業 人数 所属 ※申込者のうち、回答があった方のみ記載

司書	75	点字図書館司書, 高知声と点字の図書館司書, 東京子ども図書館司書, 埼玉県立久喜図書館司書, 愛知県図書館司書, 大阪府立図書館司書, 足立区立図書館司書, 練馬区立小竹図書館 図書館司書, 練馬区立平和台図書館司書, 葛飾区立中央図書館司書, 川口市立図書館司書, 東京都立大学図書館司書, 福島県立本宮高等学校学校司書, 私立女子中学高等学校図書館司書, 小平市立第十五小学校図書館司書, 都立高校図書館委託業務司書, 公民館図書室司書
図書館	70	国立国会図書館, 国立国会図書館 関西館, 文京区役所 真砂中央図書館, 足立区立図書館, 豊島区立図書館 (公務員), 台東区立中央図書館, 練馬区立稲荷山図書館, 練馬区立南田中図書館, 練馬区立練馬図書館, 練馬区立小竹図書館, 新宿区立北新宿図書館, 板橋区立中央図書館, 多摩市立図書館 青梅市立青梅中央図書館, 小金井市立図書館, 狛江市立中央図書館, 羽村市生涯学習部図書館, 調布市立図書館, 千葉県立中央図書館, 千葉県立東部図書館, 埼玉県立ふじみ野市立大井図書館, 久喜市立鷲宮図書館, 草加市立図書館 (公務員), 福井県立図書館, 伊那市立図書館, 山梨県立図書館, 愛知県図書館, 中津川市立図書館, 大阪府立中央図書館, 京都府精華町図書館 (地方公務員), 高知県立図書館, オーテピア高知 声と点字の図書館, 社会福祉法人日本点字図書館, ロゴス点字図書館, 筑波技術大学視覚障害系図書館, 北見工業大学図書館職員, 神戸大学 (大学図書館職員), 横浜市立盲特別支援学校 図書館, 図書館友の会全国連絡会, 町田市立図書館協議会, 新宿区声の図書館研究会, 学校図書館SLS, 公共図書館学校支援担当, 中学校図書館指導員
行政	34	文部科学省, 厚生労働省, 千葉県教育庁教育振興部生涯学習課, 三重県教育委員会事務局, 高知県障害福祉課, 鳥取県庁障がい福祉課, 公務員 (佐賀県), 荒川区立教育センター, 江戸川区福祉部障害者福祉課, 柏市教育委員会指導課, 地方公務員 (埼玉県坂戸市), 市川市役所障がい者支援課, 市教育センター指導主事, 浜松市議会議員, 参議院議員公設秘書
教育関係	31	国立特別支援教育総合研究所, 福島県立視覚支援学校高等部, 塙保己一学園, 千葉県立八千代特別支援学校, 市川市立須和田の丘支援学校教諭, 岐阜希望が丘特別支援学校, 鳥取県立鳥取盲学校, 明石高専建築学科, 都立高校教諭 (国語科), 恵泉女学園司書教諭, 公立中学校非常勤教員, 公立中学校非常勤教員, 元公立中学校教員, 公立小学校特別支援教室専門員, 学習サポーター特別学級支援員, 小学校支援学級 介助員, 放課後児童クラブ支援員, 保育士
会社員	22	ナカバヤシ, (株)ネットアドバンスオトバンク, 株式会社コンセント, 株式会社システムギアビジョン, 高知システム開発, シナノケンシ株式会社, 埼玉デジテック, 株式会社めくるむ, システム開発者, まちづくり会社スタッフ
大学	21	東北大学, 東京都立大学, 宮崎大学大学院教育学研究科, 東京大学名誉教授大学教員, 津田塾大学, 専修大学, 鶴見大学, 中部学院大学, 帝塚山大学, 久留米大学, 筑波技術大学視覚障害系支援課, 大学入試センター
医療・福祉関係	19	医師, 言語聴覚士, 理学療法士, ピアカウンセラー, 徳島県立障がい者交流プラザ, 日本視覚障害者団体連合点字出版所, (社)日本障害者就労支援事業所協会, 日本点字技能師協会, 鳥取県ライトハウス, 京都ライトハウス, 名古屋ライトハウス, 視覚障害者情報提供施設, 富山盲ろう者友の会, 岐阜県LD等親の会れんげの会, 横浜市視覚障害者福祉協会, 千葉県視覚障害者福祉協会
ボランティア	18	全国音訳ボランティアネットワーク, 拡大教科書製作ボランティア, 音訳ボランティア, 読書ボランティア, 区立図書館ボランティア, 拡大写本・学校図書館ボランティア, 地域文庫, 朗読指導者修了生, 読み聞かせボランティア, 高知朗読奉仕者友の会, 柏市拡大写本サークル
学生	17	東京大学, 津田塾大学, 立教大学, 鶴見大学, 大阪工業大学, 大学院生
出版関係	17	小学館, ポプラ社, 童心社, 光村図書, 東京書籍, 新聞之新聞社, 電子出版制作・流通協議会, 日本書籍出版協会, 大日本印刷
団体職員	10	一般財団法人日本児童教育振興財団、公益財団法人伊藤忠記念財団、NPOブックスタート、特定非営利活動法人 支援技術開発機構、公益社団法人NEXT VISION,
主婦	7	
その他	7	デザイナー, フリーランス, 自営業, パート, 派遣

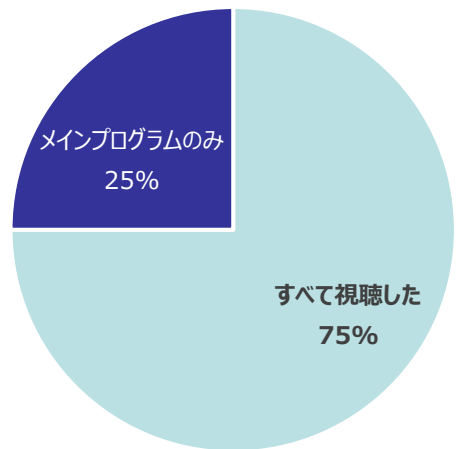
■ 配信に申し込んだ理由は？（複数選択可）

回答	回答数
関心ある分野だったから	7
関連する分野の活動をしているから	4
関係者に誘われたから	2



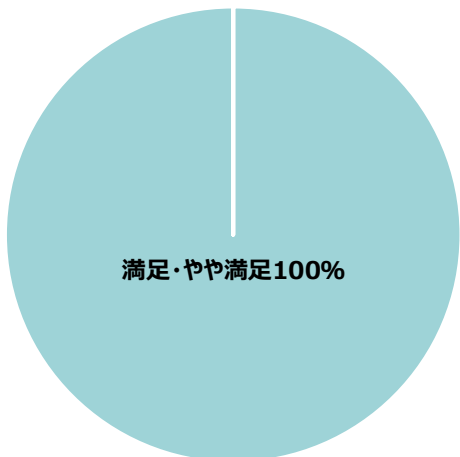
■ 配信はご覧になりましたか？

回答	回答数
すべて視聴した	6
メインプログラムのみ	2



■ 配信の総合的な満足度を教えてください。

回答	回答数
満足・やや満足	6
やや不満・不満	0

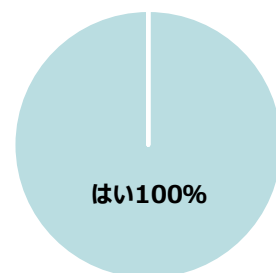


上記「満足度」を選んだ理由について

- 音声も映像も乱れることなく、視聴することができた。
- それぞれの事例発表がとてもわかりやすく、写真の提示も多く参考になりました。
- 視覚障害だけでなく、ディスレクシアや知的障害の事例についても知ることができ、大変興味深かった。様々な場所で情報アクセシビリティに関するシンポジウムに参加しているが、これほど様々な障害分野の事例を実際に聞くことのできた機会は初めてだったので、とても勉強になった。障害種別だけでなく、障害当事者、支援者、行政職員など、様々な立場のパネリストを迎えていたことも良かった。
- 出版社でバリアフリー対応、アクセシビリティ対応の関連業務に携わっています。実際に障害をお持ちの方、支援活動に関わる方などの声を通してこの分野の状況を概観することができる、すばらしい内容でした。とくに、アブディンさんの基調講演には感銘を受けました。

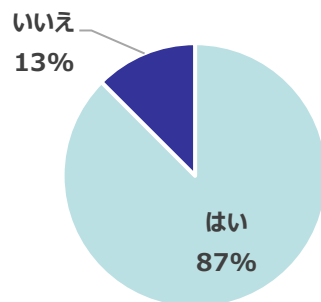
■視覚障害者等の読書環境整備の推進に関する基本的な計画について
知ることができましたか？

回答	回答数
はい	8
いいえ	0



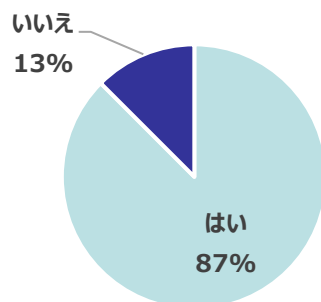
■先進的な障害者サービスの取り組みを知ることが
できましたか？

回答	回答数
はい	7
いいえ	1



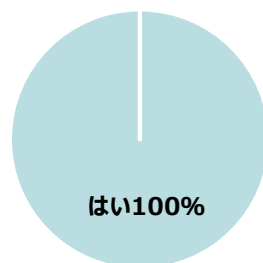
■図書館等における障害者サービスの充実の必要性について
考えるきっかけになりましたか？

回答	回答数
はい	7
いいえ	1



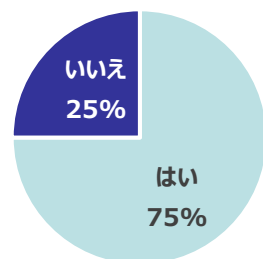
■図書館等を利用する障害者の理解促進について
考えるきっかけになりましたか？

回答	回答数
はい	8
いいえ	0



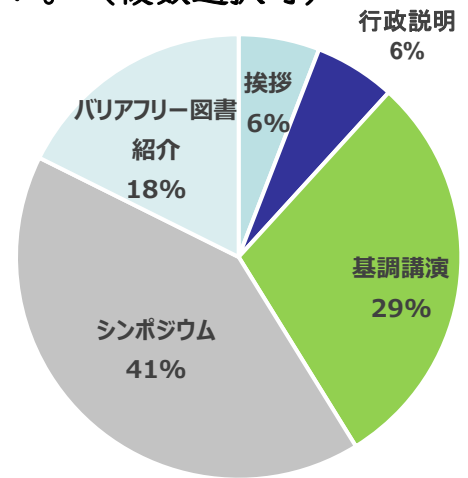
■アクセシブルな書籍・電子書籍や読書支援機器等の紹介は
参考になりましたか？

回答	回答数
はい	6
いいえ	2



■特に参考になったプログラムをお聞かせください。（複数選択可）

回答	回答数
挨拶	1
行政説明	1
基調講演	5
シンポジウム	7
バリアフリー図書紹介	3



■今後、読書バリアフリーに関するイベントを開催するにあたり、参加してみたいテーマや登壇者のご要望がありましたら教えてください。

- 技術をもつ企業や研究者と、福祉や図書館の現場とをつなげるような試みをしたい。
- 図書館関係者の方のお話を複数の方から聞いてみたいです。
- 基調講演でも触れていましたが、現在のボランティア依存の体制をどのように変革していけばいいのかに興味があります。
- 高知県のような行政の取組事例を学びたい。
- 今回は主に視覚障害、ディスレクシア、知的障害に関する事例を聞くことができた。もし今後開催するのであれば、他の障害種別の当事者が抱える困難についても聞いてみたい。例えば、手話を母語とする聴覚障害者に対して、書籍を手話の動画で提供するサービスがあると聞いたことがある。なぜそのようなサポートが必要なのか、どのような背景で生まれたのか、現在抱えている課題や今後の展望について聞けたら良いと思う。その他、今回は主に行政職員と教育関係者が登壇していたが、作家や出版社、図書館司書など、書籍にまつわる様々な立場の人が議論するような機会を作って欲しい。出版社や図書館、行政だけでなく、実際に本を書いている作家や研究者たちにも読書バリアフリーについて周知する必要があるのではないだろうか。ぜひ多様な切り口から今後もこのようなイベントを継続してほしい。
- アクセシブルな書籍、コンテンツを提供する側の一員として、出版社の取り組みについても知りたいと思いました。また、電子図書館がどのように利用されているのかも知りたいと思います。

■その他・自由記述

- 多様な視点から障害者における読書環境の現状と課題が分かった。
- 自分の地域で取り組む際の参考になりました。
- オンライン配信で視聴できたので、地方在住者として参加できてよかったです。
- 行政は、このことについて、社会教育・福祉・図書館・学校教育の連携が難しい状況にあると思います。どこが主管して進めるか、人員が削減されている中、大事なことだと分かっているにもかかわらず進めることが困難な状況をどう打破するかが課題です。
- 3月末までの時限公開のようですが、有益な内容で、多くの人に観てもらいたいと思います。公開は期限を区切らずに延長されてはどうかと思いました。